



海辺の漂着物の観察・採集などを行いました

9月20日の化石プログラムでは、西の浜海岸(里町)で漂着した生物の骨や殻などの観察・採集(ビーチコーミング)を行いました(写真1)。見慣れない魚や猪など骨の不思議な形に子供達はびっくり。さらに、翌日の中級コースでは、太田の浜(上甑町)に漂着したアカウミガメの甲羅の骨を採集しました。集めた骨は、10月18日の化石プログラム(天候不良のため予定変更)にて洗浄し、図や標本と見比べながら、みんなで骨格を「復元」!現在の生き物の骨は化石の研究にも役立ちます(写真2)。

秋の集中発掘調査が始まりました

10月17日から秋の集中発掘が始まり、博物館スタッフに加えて、全国3つの大学と2つの博物館の研究者や学生が27日まで発掘を行っています。また、10月18日には、恐竜時代の哺乳類について研究している楠橋直先生(愛媛大学)が、鹿島町で発見された新種の哺乳類化石に関する講演会を行いました(写真3)。

高知コア研究所で甑島の岩石を分析します

11月4日から、山下学芸員が採集した岩石試料を高知大学海洋コア国際研究所(掘削試料を専門とする国際的な研究所)にて分析します(写真4)。岩石が記録した大昔の地球磁場の方位を調べることで、地層がたまたま年代を詳しく調べられます。

大型哺乳類「リノティタン」を組み立てます

11月3日に大型哺乳類「リノティタン」の骨格の組み立てを行います。ふるってご参加ください。

日本古生物学会と普及講演会を実施します

12月5日から薩摩川内市(SSプラザせんだい)にて日本古生物学会が開かれ、全国から化石の研究者が集まります。7日午後には甑島産の恐竜を研究している真鍋真先生による普及講演会が開かれますので、ぜひご参加ください。



写真1 西の浜(里町)で、漂着した生物の骨や殻などを観察する子どもたち。



写真2 アカウミガメの骨格をパズルのように復元していく子どもたち。



写真3 鹿島公民館で、新種の哺乳類化石について講演を行う楠橋先生(愛媛大学・准教授)。



写真4 ダイヤモンドの刃が付いた専用ドリルを使って岩石をくり抜く山下学芸員。